



IDEAユーザーミーティング 2018

TRIZを核とする体系的開発手法の連携活用で、
魅力的で革新的な、断トツ製品・断トツ技術を

個人の経験・ひらめき頼みから脱却して、
組織の力、組織の仕組みへ

■ 講演予定企業（五十音順）

- Everest Textile Co. Ltd
- オーエム機器株式会社
- オリンパス株式会社
- 小林製薬株式会社
- 伸和コントロールズ株式会社
- 東洋ゴム工業株式会社（追加決定）
- 丸五ゴム工業株式会社
- 株式会社アイデア

■ 開催要項

- 日時：2018年10月19日（金）10:00～17:45
- 会場：TKPガーデンシティPREMIUM神保町（東京都千代田区）
- 参加費：無料（事前登録制）
- 定員 200名
- 参加対象 アイデア社の開発手法・ソフトウェアソリューションのユーザー様、および導入を検討中のお客様。まずはIDEAのソリューションがどのようなものか知りたいという方も是非ご参加ください

⇒ 参加申込みはアイデア社ホームページからどうぞ（9月上旬より受付開始）

<http://www.idea-triz.com/user-meeting2018/>

TRIZで日本の製造業を元気にする！を合言葉に、株式会社アイデア（IDEA）は、TRIZ（発明的問題解決理論）を核とする体系的開発手法の連携とイノベーション支援ソフトウェアGoldfireを活用し、クライアント企業の皆様の魅力的で革新的な、断トツ製品・断トツ技術づくりを支援して参りました。

2015年、2016年、2017年に引き続き、今年も、『**IDEAユーザーミーティング 2018**』を開催し、日々革新的なものづくりに挑戦している企業推進者の方々の取り組みをご紹介いただくと共に、IDEAからは私どもの『体系的な手法×Goldfireソリューション』の最前線の情報をお届けします。

高い顧客価値を生む製品開発を、個人頼みから脱却し、組織の仕組みにする。

今IDEAのクライアント企業の多くが、体系的開発手法を活用したアプローチを導入することにより、高い顧客価値を生む新製品やそのための技術開発を、一握りの優秀な個人の力量に依存するのではなく、製品開発に関わるあらゆる組織・人にとっての共通のプロセス・スキル（“組織の仕組み”）にするべく取り組まれています。この“属人性からの脱却、組織の仕組み化”は、今年のIDEAユーザーミーティングのテーマでもあります。体系的な手法の合理性、論理性、そして実績により検証されてきた実用性は、製品開発における企画構想力や課題解決力を組織力とする上で大きな役割を果たします。講演内容は、取り組みに着手したばかりの企業、既に社内への展開・定着期にある企業の双方の講演が含まれます。参加される皆様の企業がどの段階にあるとしても（未着手の企業の方も）、興味深い内容になると確信しております。

また講演プログラム後は、日頃のご愛顧への感謝の意を表し、今年も懇親会による参加者の皆様相互のネットワーキングの場も用意させていただきます。

数多くの皆様の参加をお待ちしております。

2018年8月
株式会社アイデア 代表取締役社長 前古護

セミナー／講演／懇親会スケジュール

<午前の部：体系的開発手法セミナー，会場：プレミアムボールルーム>	
9:30 -	受付開始
10:00 - 10:05	開会挨拶 株式会社アイデア 前古護
10:05 - 11:30	#1 セミナー：断トツ製品を開発する、QFD→TRIZの連携 株式会社アイデア 片桐朝彦
<昼休み>	
<午後の部：講演会，会場：プレミアムボールルーム>	
12:30 - 13:00	#2 商品企画のためのTRIZ活用 伸和コントロールズ株式会社 松田幸士様
13:00 - 13:30	#3 自動車用ゴムホースのズレ・抜け対策 丸五ゴム工業株式会社 中野将之様
13:30 - 14:00	#4 既存商品の問題解決のためにTRIZを活用して見えてきた効果と課題 ～ 据置き手すりの問題解決を例として ～ オーエム機器株式会社 宮原麻衣様
<休憩>	
14:10 - 14:40	#5 『シーズドリブンQDによる新事業開拓』 ～ 技術シーズと“想定”顧客ニーズのお見合い ～ 株式会社アイデア 笠井肇
14:40 - 15:10	#6 小林製薬における、Goldfireを活用した「仕事のやり方を変える」取り組み 小林製薬株式会社 山中雅史様
<休憩>	
15:20 - 16:05	#7 TRIZ課題解決手法による、布表面の樹脂残留問題の解決 Everest Textile Co., Ltd. (台湾) Richard, Chuan-I Hsu様
16:05 - 16:35	#8 「科学的アプローチの推進」 ～ 活用拡大に向けた、『7つの目的別ソリューション』と教育の改善活動 ～ オリンパス株式会社 藤川 一広様、土屋 浩幸様、三木 基晴様
16:35 - 17:05	#9 ユーザ体験（UX）の考え方を採り入れた、顧客視点ベースの新商品企画 ～ 時間・空間SN（シーズ・ニーズ）マトリックスとTRIZによる体系的アプローチ ～ 株式会社アイデア 緒方隆司
17:05 - 17:35	#10 イノベーション手法を活用したタイヤ技術開発事例 ～ 新技術「Toyo Silent Technology」は、このようにして生まれた ～ 東洋ゴム工業株式会社 柏原直人様、榊原一泰様
17:45 -	閉会挨拶／懇親会ご案内
18:00 - 20:00	懇親会（会場：プレミアムガーデン）

セミナー／講演概要

#1 セミナー：断トツ製品を開発する、QFD→TRIZの連携

株式会社アイデア TRIZプログラム担当 片桐朝彦

<概要>

魅力的で革新的な製品、他社と明確に差別化された製品、そんな断トツ製品を生み出すには、①革新的な企画を発想する力、②革新的な技術を開発する力、の両方が必須になります。

仮に、革新的な企画を発想できても、それを実現する技術開発力がなくては絵に描いた餅で終わってしまいますし、現有の技術開発力のままで実現可能な企画では断トツ製品は実現しません。一方、革新的な技術を開発する力があっても企画力がなければ、断トツ製品が生まれる可能性は低くなってしまいます。

これに対しIDEAは、①QFDによる商品企画と②TRIZによる課題解決プロセス、および、これらの連携による体系的な製品開発プロセスをご提案します。

昨年度のユーザミーティングに引き続き、本セミナーは、

①QFDの概要と適用フロー

魅力的で革新的な商品企画と、それを実現するために必要な技術課題の抽出

②TRIZの概要とアイデア流課題解決のフロー

問題の本質化と、TRIZツールによる徹底的なアイデア出し、アイデアの有効化によるコンセプトの生成、について事例を交えながらご紹介します。

“QFD→TRIZによる断トツ製品を生み出す仕組みとは”、“QFDとは何か”、“TRIZとは何か”、“一般的なQFDとの違いは何か”、“QFD、TRIZをこれから開発に適用してみたい”、… など、QFD、TRIZについて知りたい方、これからQFD、TRIZを導入したいと考えている方を対象にしています。

※本セミナーは、昨年度ユーザミーティングの同タイトルのプログラムと同じ内容となります。

#2 商品企画のためのTRIZ活用

伸和コントロールズ株式会社 長野事業所 開発部 松田幸士様

<概要>

伸和コントロールズ株式会社では、2010年から2011年にかけて取り組んだQFD、TRIZの成功事例「精密温湿度空気供給装置の小型化」を皮切りに高耐久性電動弁の開発につなげ、弊社製品開発でTRIZの活動を継続しています。

また、営業活動へ応用し、市場へどのような価値を提供できるのかという意識転換を図り、新たな製品開発に繋げています。

本報告では、第10回TRIZシンポジウムで報告した電動弁の改良紹介を行いながら、拡販活動における取り組みを紹介します。

講演概要

#3 自動車用ゴムホースのズレ・抜け対策

丸五ゴム工業株式会社 新規事業開発部 中野将之様

<概要>

当社として初めてTRIZを導入する上で、コンサルの指導によって、5名×2チームの研修生が7日間のセミナーを通じて、実際に難題に直面しているテーマを設定し、問題解決にあたった事例について紹介します。

チームAのメンバーは、開発・設計・生産技術・製造の各部門から選定され、テーマとしては単純ではあるが、非常に解決に難航している「ゴムホースのズレ・抜け対策」とし、台上耐久試験での、高温・振動・脈圧によって、ゴムホースが挿入されたパイプからズレ＆抜けるという課題を、まずはGoldfireを用いて原因結果分析と機能属性分析を実施しました。

次いで、発明原理・進化パターン・科学的効果からのアイデア出しを行い、開発期間を横軸、機能性を縦軸にしてマッピングを作成し、アイデアの選択と結合によって、短中長期実現目標のコンセプトを摸索しました。

#4 既存商品の問題解決のためにTRIZを活用して見えてきた効果と課題
～ 据置き手すりの問題解決を例として ～

オーエム機器株式会社 開発課 宮原麻衣様

<概要>

オーエム機器株式会社は、「お客様の想いを形に」をモットーとして、OAフロアや住宅関連商品（シャッター、断熱物置用パネル）、福祉関連商品（トイレ用システム手すり、介護用水廻り車いす）など金属加工製品を中心とした商品の開発・製造を行っています。

近年、中でも高齢者向けの福祉関連商品の引き合いが増えています。福祉関連商品の開発において、私たちはお客様の要望や情報をもとに、他分野の商品開発で培った技術を展開し、自分たちの知識や経験、アイデアを組み合わせるという方法で開発をしてきました。

しかし、この方法では発想が狭く、競合商品とひと味違うといった差別化された目新しい商品にはならず、従来の開発方法を打破したい、付加価値を高め競合商品との差別化を図り、魅力的な商品を開発したいと思い、QFD・TRIZの活用を始めました。

講演概要

**#5 『シーズドリブンQDによる新事業開拓』
～ 技術シーズと“想定”顧客ニーズのお見合い ～**

株式会社アイデア プロジェクトコンサルティング担当 笠井肇

<概要>

『シーズドリブンQD』とは、自社で保有する優れた技術ポテンシャルを活かせる新製品・新サービスを探索し、事業拡大につなげることができる体系的な開発手法です。

【第1ステップ】では、技術シーズを起点とし、“Goldfire”（イノベーション支援ソリューション）を活用して多くの技術シーズの想定用途を発掘します。

【第2ステップ】では、それら想定用途から事業の成長・拡大につながるスジの良い候補を絞り込むための事業性評価を行います。

さらに【第3ステップ】で、選定した用途を待ち望んでいる「まだ見ぬ“想定”顧客の顕在要求・潜在要求」を調査・分析します。

そして提供する新製品・新サービスと“想定”顧客ニーズとのお見合いを成功させ、開発ロードマップに繋がります。

本講演では、この『シーズドリブンQD』のアプローチの概要と、多くの想定用途から定量的に事業性を評価する方法をご紹介します。

#6 小林製薬における、Goldfireを活用した「仕事のやり方を変える」取り組み

小林製薬株式会社 日用品事業部 研究開発部 新製品開発特命担当 山中雅史様

<概要>

小林製薬は、「あったらいいなをカタチにする」のスローガンの下に、医薬品、芳香剤、栄養補助食品（サプリメント）、日用雑貨品などの分野で、様々な製品を提供しており、現状の事業領域にこだわらず、より幅の広い「人と社会に素晴らしい『快』を提供する」という経営理念に基づいた事業活動を行っています。

世の中のニーズを先取りした製品開発を行うためには、「情報収集」と「アイデア発想」の方法を常に変化させていくことが必要となります。そのため、小林製薬は2016年から株式会社アイデアの指導の下で、Goldfireを様々なシーンで活用すべく社内で推進しています。本講演では、その事例をご紹介します。

講演概要

#7 TRIZ課題解決手法による、布表面の樹脂残留問題の解決

Everest Textile Co., Ltd. (台湾)、 Everest Technology Research Center
Richard, Chuan-I Hsu様

<概要>

We first use the TRIZ method as a tool to solve our surface resin residue problem on fabric we met. By use of the TRIZ-based problem-solving process, we learn how to define our problem with Root-Cause Analysis and Device analysis. Our team easily generated up to 250 ideas with the Inventive Principle and System Modification Patterns from TRIZ. These ideas were effectively classified into eight subsystems, and we finally draw a conceptual map of the main system to find the several major solutions which can be used to solve our problems by steps. Therefore, we think TRIZ is most useful in roles to be as a problem-solving tool. We would import into our other specific problems and train our members how to apply TRIZ method to generate solution we need.

※本講演は逐次通訳が付きます

#8 「科学的アプローチの推進」

～ 活用拡大に向けた、『7つの目的別ソリューション』と教育の改善活動 ～

オリンパス株式会社 ソリューション技術本部 ECM推進部
藤川 一広様、土屋 浩幸様、三木 基晴様

<概要>

オリンパスでは、2009年よりQFD、TRIZ、品質工学(TM)を開発プロセス改善のための科学的アプローチとして導入し、2012年からは、現場の技術問題を機能ベースの手法連携で効率的に解決する「7つの目的別ソリューション」を提供する形に進化させてきました。技術者の『困った』に直結したソリューションは、活用場面が分かりやすく、我々の支援件数も増加し、認知度も向上しています。

次のステップとして、更なる活用拡大を進めるには、現場に根ざしたより幅広い柔軟な解決方法を提供する事、技術者自らが科学的アプローチを体得し活用する事が、重要と考えました。

今回は、これまでの活動の経過及び次のステップに向けた課題とその取り組みに関して紹介します。

講演概要

#9 ユーザ体験（UX）の考え方を採り入れた、顧客視点ベースの新商品企画 ～ 時間・空間SN（シーズ・ニーズ）マトリックスとTRIZによる体系的アプローチ ～

株式会社アイデア プロジェクトコンサルティング担当 緒方隆司

<概要>

機能を中心に製品やプロセスを分析することで顧客ニーズと技術の関連性を明らかにして課題を解決していく目的別アプローチは、様々な分野で適用されています。

特に製品開発の企画段階で、顧客が対象製品をどのように扱うかを時系列の機能に表して分析し、時間SNマトリックスを使って顧客ニーズを網羅的に捉えるのは非常に有効であることがわかってきました。このアプローチ方法は、製品やサービスを使うユーザー体験のことを示すUX（User Experience）にも通じることが判ってきました。UXはWebビジネスの世界では良く知られていますが、近年、多くのビジネスで「モノ」から「コト」への大きな変革が進みつつある中で注目されてきています。

本講演では、このUXの考え方も入れて、顧客の行動分析を機能(目的志向)で行って操作への要求を時間SNマトリックスを使って抽出し、空間SNマトリックスへ変換することで、新商品への顧客の潜在ニーズを効率的に把握し、TRIZを使って発想、具現化する方法を紹介します。この方法は複数の企業で実践され、効果を上げつつあります。

#10 イノベーション手法を活用したタイヤ技術開発事例 ～ 新技術「Toyo Silent Technology」は、このようにして生まれた ～

東洋ゴム工業株式会社 技術第一本部 タイヤ先行技術開発部 設計研究・技術企画グループ
柏原直人様、榊原一泰様

<概要>

東洋ゴムはタイヤを主力とした商品において、「そのタイヤに驚きはあるか？」をキャッチフレーズとして、顧客感動を提供することを目指し、「ユニークな発想力、革新の技術力、常識を覆す開発」を日々追求しています。

近年の自動車業界を取り巻く環境は、「CASE（Connected, Autonomous, Shared, Electric）」という言葉に象徴されるように新たなモビリティ社会への大変革移行期であり、もはや従来の常識などは何ら役に立たず、イノベーションの早期具現化が求められます。

2012年からQFD/TRIZを活用した社内イノベーション活動を進めてきた成果もあり、エアレスタイヤ「noair」やタイヤ静音化技術「Toyo Silent Technology」など、ユニークな新技術を続々と完成させ社外発表をしました。

今回講演では、イノベーション手法をタイヤ技術開発へどのように適用したのか、具体的な解説とともに紹介いたします。

会場案内：TKPガーデンシティPREMIUM神保町



- | | |
|------|--|
| 住所 | 〒101-0054
東京都千代田区神田錦町3-22
テラススクエア3F（事務所：3F）
TEL：03-3518-8870（事務所直通） |
| アクセス | <ul style="list-style-type: none"> ●都営三田線 神保町駅 A9出口 徒歩2分 ●都営新宿線 神保町駅 A9出口 徒歩2分 ●東京メトロ半蔵門線 神保町駅 A9出口 徒歩2分 ●東京メトロ東西線 竹橋駅 3b出口 徒歩5分 ●東京メトロ丸ノ内線 淡路町駅 B7出口 徒歩7分 ●東京メトロ千代田線 新御茶ノ水駅 B7出口 徒歩7分 ●JR中央線 御茶ノ水駅 御茶ノ水橋口 徒歩10分 ●JR総武線 御茶ノ水駅 御茶ノ水橋口 徒歩10分 |



テラススクエア入館口のご案内
(会場はテラススクエア3階になります)